

望まぬ妊娠出産と親子の心の関連について

——とくに産科の立場から——

(分担研究：被虐待児予防の保健指導に関する研究)

岡村 靖

要約：妊娠中のつわり症状と心の状態との関連について検討し、性格特性と対妊娠感情の影響を分析した。

見出し語：望まぬ妊娠、親子、心の関連

研究方法：被虐待児予防のためには、妊娠中、分娩中、そして、産褥期における女性の心の安定を保ち、且つ、これから20数年に亘るの児の育生についての Motivation を湧起する事が肝要である。

そのためには、先ず、妊娠中の症状と心理との関連を検討するために、つわり症状をとりあげ、(1)性格の神経質さとの関連、および(2)妊娠を喜んだか否かの感情との関連を分析した。

結果：性格の神経質さとの関連は表1のように、また、妊娠を喜んだか否かの感情との関連は表2のように、A、B両群間に有意差が認められた。

妊娠中、は洋の東西を問わず、“胎教”を含めて、妊娠中の母児間の心の関連が古来、重視されて来ている。この表1と表2の成績から考察すると、妊娠中の妊婦の心の安定の大切さが示唆される。

考察：行政への提言として惟うことは次の通りである。

被虐待児の発生はアメリカを始め、他国に多発している状況にはあるが、日本においても楽観視しているわけにはゆかない。

本問題に関しては、被虐待児が発生してからの速やかな対応も大切ではあるが、被虐待児発生を予防することも大変重要な意義を有している。

被虐待児発生の予防については産科の領域で

の地道な努力が肝要である。すなわち(1)妊娠前、(2)妊娠中、(3)分娩時、(4)産褥期における女性に対しての“心の指導”そして“心の教育”が大切であり、これら(1)~(4)の期間に、安産のコツの指導(心と体の両面)と育児の社会的使命感の育成を十分に啓蒙教育で行ない、素晴らしい安産と育児に対する使命感を育て、母児間の心の“きずな”をしっかりとはぐくむために、保健所、および民間ボランティア団体との連携による草の根運動が肝要である。

図1は日本(全国)における20歳未満女子の人工妊娠中絶数の推移である。厚生省の毎年の発表数を筆者が図としてまとめたものである。妊娠前の留意すべき問題点として、未婚の若い女性の性に関するモラルの育成が大切なことを図1は示唆している。

今後の課題として、被虐待児の増加を防ぐためには、母児感の“心のきずな”を充分にはぐくむことが大切である。

そのためには産科の領域における努力が大きな成果を得ることになるであろうと期待される。すなわち、産科の医師、助産婦、そして保健婦が互いに密接な連携を保ちながら「安産のコツの指導」と「育児における社会的使命感の育成」に根気よく努力することが大切である。安産のコツの指導に関しては図2に示すように、分娩時の血中110HCS値(心身のストレスのインジケータを意味する)の推移からも示唆されるように分娩直後をピークとして大きい変化を示すので、心の育成が肝要である。

したがって、(1)20歳前後の未婚の女性、(2)妊婦、(3)褥婦を対象として、保健所の医師、保健婦、助産婦、および、民間のボランティア団体、公民館婦人学級と連携して、妊娠中の心の安定と育児への積極的な Motivation の育成に努力し、母親と子との心のきずなをしっかりとはぐくみ育てたいと考える。

文 献

1) 岡村靖：分娩における母体への心身医学上

の配慮、産婦実録29、85-89、1980

2) 岡村靖：第1回汎太平洋産婦人科心身医学シンポジウムおよび第18回産婦人科心身医学研究会について、心身医学29、493-494、1989

3) 岡村靖：人工妊娠中絶のもたらすもの、教育と医学37、470-477、1989

4) 岡村靖：ストレストと産婦人科疾患・ストレス社会と心の健康、第1巻、P210-217、世界保健通信社、1991

表1 性格の神経質さとの関連

	神経質なグループ	神経質ではないグループ
Aつわりのあった人	248名 (88.6%)	191名 (75.2%)
Bつわりのなかった人	32名 (11.4%)	63名 (24.8%)
合 計	280名 (100%)	254名 (100%)

[χ^2 検定] $\chi^2=16,289$ P=0.0001

表2 妊娠を喜んだか否か

	妊娠を喜んだグループ	妊娠を喜ばなかったグループ
Aつわりのあった人	302名 (77.6%)	126名 (86.9%)
Bつわりのなかった人	87名 (22.4%)	19名 (13.1%)
合 計	389名 (100%)	145名 (100%)

[χ^2 検定] $\chi^2=5,695$ P=0.0170

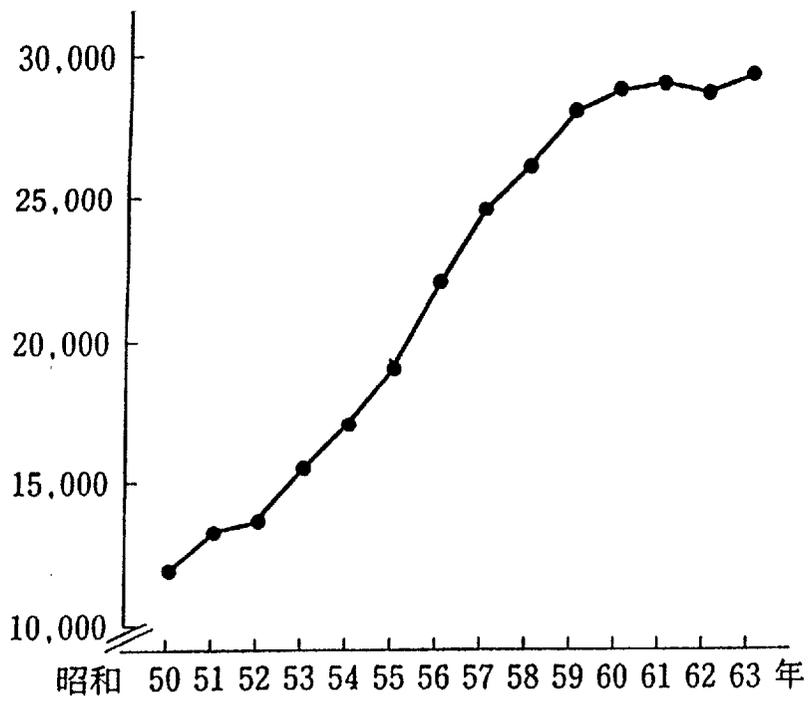
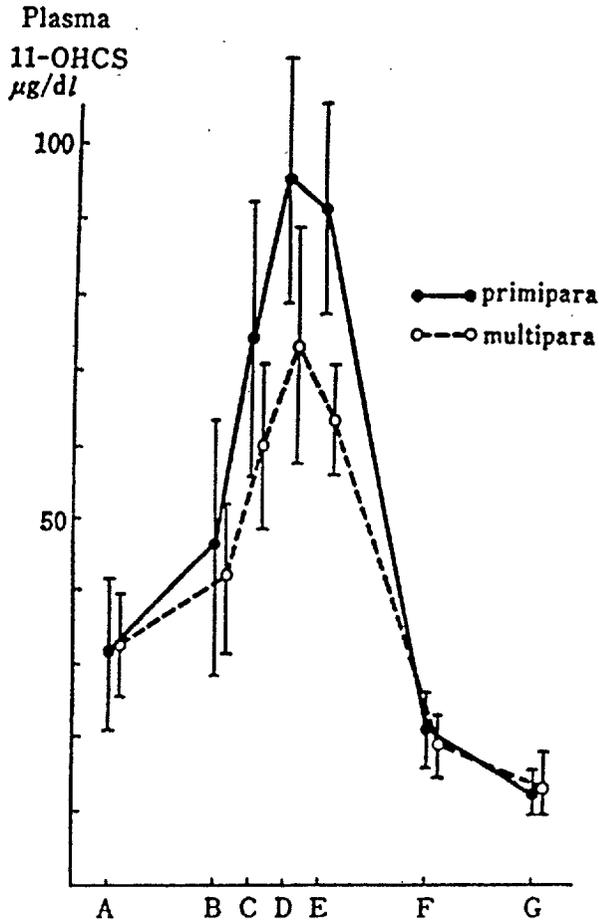


図1 日本（全国）における20歳未満女子の人工妊娠中絶数の推移



⊗ 2 Variations in plasma levels of free 11-OHCS in normal pregnancy, labor and puerperium.

- A: 37-40 weeks of pregnancy
- B: <5 cm dilatation of the cervix
- C: >5 cm dilatation of the cervix
- D: immediately after delivery
- E: immediately after recovery of placenta
- F: the 3rd day of the puerperium
- G: the 6th day of the puerperium

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:妊娠中のつわり症状と心の状態との関連について検討し、性格特性と対妊娠感情の影響を分析した。